

# 三晃化学 株式会社

## 支えたい、伝えたい、北の産業

農業、土木、産業資材の販売、製造、開発を行う。商品開発のほか海外からの輸出入を行うなど、新たな産業への挑戦も進める。

設立 昭和31年5月  
従業員数 26名・パート22名  
代表者 渡辺 庸介



札幌市中央区南1条東5丁目1-17

TEL 011-221-5221  
FAX 011-241-6830  
<https://www.sankou1.com>



代表取締役社長  
渡辺 庸介

## 生産性向上に向けた1歩を

ものづくりに対しては受け身にならず「積極性と責任感」を持って取り組んでいます。これまで曖昧になっていた現場の作業効率をデータとして「見える化」することで課題を抽出し、ひとつひとつ解決していきたいです。

## 縫製作業記録のIoT導入による 作業効率の見える化

### 日々の記録が重要なデータの蓄積に

1956年に創業した三晃化学株式会社の歴史は、炭鉱用風管をシートで製造する事業から始まった。以来、北海道の産業構造の変化に合わせて、農業資材、産業資材のシートやネットの製造を担い続けている。

同社工場では現在パート従業員20名が3チームに分かれて、縫製・裁断作業を行っている。製品ごとの製造時間の記録は、パートリーダーが業務終了後にまとめて手作業で行っていた。そのため個人が作業を中断した場合などは把握しきれず、正確な作業時間の記録ができていない状況だった。データの正確性の担保や、生産性向上に向けて活用可能なデータの蓄積ができず大きな課題となっていた。

こうした状況を改善すべく、導入したのが「kintoneによるタブレット入力システム開発」だ。日常的には作業記録および製造時間記録に用い、長期的には受注前に算出した製造時間と実績の差異を検討により、潜在的な赤字製品の検証などに役立てることが可能となる。

### より働きやすい現場づくりに取り組む

導入後はパート従業員1人1人が、貸与されたタブレットで製品ごとの作業記録をつける。「開始」「中断」「再開」「終了」をタップして、作業状況を記録していくシンプルな操作だ。導入当初はやや混乱もあったが、1年近く運用を続ける中で日常業務に馴染んだ。パートリーダーは記録のための残業や、手書き作業による負担がなくなった。現場からのフィードバックをもとに、既に改良版の開発に向けて動き始めているという。より正確なデータを記録できるよう検証中だ。「日々の正確な記録が、当社の事業を詳細に分析するためのデータとなります。IoT導入を進めるにあたって、普段とは違うかたちで従業員とコミュニケーションが取れ、現場をさらに深く知ることができました」と、渡辺さん。同社のパート従業員は地域の主婦がほとんどで、20年以上勤続するベテランも活躍している。「彼女たちに長く働いていただける環境をさらに整備したい」と語った。

1人に1台貸与されるタブレット。  
作業状況を記録していく



瞬く間に縫製されていく農業資材用ネット



農業資材用シートの大きさは、  
数人がかりで広げる必要があるほど